

科目・コース（ユニット）名：腫瘍内科学【医学4】

英語名称：Medical Oncology

【担当責任者】佐治重衡

【開講年次】4年，【学期】前期，【必修／選択】必須，【授業形態】講義

【概要】日本の死因の第1位はがんであり、その多くの患者さんに薬物療法を用いた治療が必要となる。これまでがん薬物療法は各臓器別に行われてきたが、がん薬物療法を臓器横断的に行うことができる腫瘍内科の重要性が認識されてきたことから、当科ではがんの病態を理解し、がんに対する薬物療法を中心としたさまざまな治療やケアを学ぶことを目標とする。

【学習目標】

1. がん薬物療法に用いられる薬剤の作用機序、薬剤の副作用、治療適応を決定するために必要な検査について理解できる。また、がんの成り立ちや、遺伝カウンセリング、臨床試験について説明することができる。
2. 薬剤による治療の有害事象とその評価方法（CTCAE など）、対応方法が理解できる。
3. 腫瘍内科で治療を行っている代表的な癌腫における治療戦略について説明できる。
4. がん患者による講義を通して、がんと診断されたとき、がん治療中の患者・家族の身体的・精神的・社会的苦痛に共感することができる。

【教科書】特に指定しない。授業開始前までにあらかじめ配布する講義資料を準備して、授業に参加すること。

* 『医学教育モデルコアカリキュラム E-3 腫瘍』は事前に読んでおくこと。
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/06/28/1383961_01.pdf

【参考書】 がんがみえる メディックメディア
入門腫瘍内科学 南江堂
がん診療レジデントマニュアル 医学書院

【成績評価方法】出席日数は総授業数の2/3以上の出席を必要とする。
成績は筆記試験・出席日数により総合的に評価する。

【学習上の注意事項】 わからないことがあれば積極的に質問し、能動的に講義に臨むこと。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

当科では多くの国際共同臨床試験や医師主導臨床試験に参加していることもあり、第1

回, 第2回の授業においてエビデンスのとらえ方、治療効果判定法、有害事象の評価法、統計学的な解釈、臨床試験の開発法に加え、がん診療の臨床における最新の知見も含めた授業を行う。

また、今年度は2回の特別授業を予定している。第2回の授業においてがん治療を経験された患者さんを講師にむかえることで、がん患者の言葉に直接触れることのできる授業を行い、第5回の授業においては日本のがん治療をリードしているがん研究会有明病院より講師をおむかえし、腫瘍内科の魅力に加え、今後医師として臨床試験・治験などにおける中心的な役割者として参加できるような内容の指導を行う。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2026/5/20	水	IV	(講) 総論 がん薬物療法	佐治 重衡
2	2026/5/20	水	V	(講) 特別 がん患者さんからのメッセージ	鈴木 牧子/ 佐治 重衡
3	2026/5/20	水	VI	(講) 各論 がんの症状緩和	木村 礼子
4	2026/5/27	水	IV	(講) 各論 腫瘍と遺伝	徳田 恵美
5	2026/5/27	水	V	(講) 特別 がんの臨床試験と腫瘍内科の未来	高野 利実
6	2026/6/3	水	IV	(講) 各論 がん薬物治療各論	佐々木栄作
7	2026/6/3	水	V	(講) 各論 造血器腫瘍の考え方	野地 秀義

【担当教員】 連絡先：腫瘍内科医局 (内線 2 6 5 5)

教員氏名	職	所属
佐治 重衡	教授	腫瘍内科学講座
徳田 恵美	准教授	腫瘍内科学講座
木村 礼子	学内講師	腫瘍内科学講座
名取 穰	助教	腫瘍内科学講座
高野 利実	非常勤講師	がん研究会有明病院 院長補佐 乳腺内科 部長
鈴木牧子	非常勤講師	「ひいらぎの会」代表世話人
野地秀義	臨床教授・病院長	腫瘍内科学講座・福島南循環器科病院
佐々木栄作	臨床教授	腫瘍内科学講座/ 千葉西総合病院

【医師として実務経験のある教員による授業科目】 総論、各論講義